

令和4年度 自己評価 (主要施策の取組状況)

安定した下水道事業の経営に向けて事業進捗の自己評価を年度ごとに行い、進捗状況や社会情勢の変化を踏まえ、PDCAサイクルの確立を通じて、計画的経営を実現するとともに経営の適正化に努めます。

事業の整備目標に基づき年度ごとに自己評価を行い、整備目標に未達成の事業は、課題となる事項の抽出を行い、整備目標の達成に向けた課題解決を図り、適時、進捗管理を行います。

大阪市下水道事業経営戦略 概要

○経営戦略策定の目的

- ✓ 本市は、明治27年より下水道事業に着手し、普及率はほぼ100%を達成。
- ✓ しかしながら、「急増する老朽施設」、「集中豪雨への対応」、「地震・津波等への対応」、「水質改善など都市環境への対応」などに、さらなる投資が必要。
- ✓ 下水道使用料収入は、大阪市人口ビジョンにより人口減少が予測されることなどから、将来的には減少傾向となり、厳しい経営環境となる見込み。
- ✓ これらに対して、質の高い下水道サービスを将来にわたって継続的に提供していくため、中長期的な経営の基本計画となる「大阪市下水道事業経営戦略」を策定。

○大阪市の下水道が抱える課題

課題①

急増する老朽施設

課題②

集中豪雨への対応

課題③

地震・津波等への対応

課題④

都市環境への対応

○課題に対応する4つの施策

機能維持

- 施設を良好に維持し、機能を適正に確保します。

地震対策

- 地震や津波等の自然災害による被害を抑制します。

浸水対策

- まちの浸水に対する安全度を向上させます。

都市環境保全

- 清らかな水環境の保全に寄与し、都市の環境や魅力を守ります。

機能維持

*R4年度実績値（*R4年度計画値）／全体計画値（各事業年度）

※：実績値・計画値は、いずれもR3年度～R4年度累積値

【基本方針】

計画的な点検や調査の実施により施設の状態を把握し、効率的な施設の管理を実施することで、施設全体の健全性を維持します。

【主な事業の進捗】

管きよ改築	91km（104km）／539km（R12年度）
機械・電気設備改築	220装置（246装置）／1,670装置（R12年度）
土木施設・建築施設の改築	事業進捗率：11%（28%）／100%（土木）（R12年度） 8棟（9棟）／23棟（建築）（R7年度）
海老江下水処理場改築更新事業	事業進捗率：79%（83%）／100%（R5年度）
中浜下水処理場水処理施設整備事業	事業進捗率：R3年度完成済
汚泥処理施設整備運営事業	事業進捗率：0.2%（0.2%）／100%（R8年度）

事業進捗率：計画事業費に対する出来高を示す。

【評価と今後の取組方針】

施策	評価	今後の取組方針
機能維持	<p>○全般的な事業進捗としては、翌年度への事業費の繰越などにより、計画値に対して未達成の事業が多い。</p> <p>○管きよの改築については、現場施工の不測の事態などにより、令和4年度までの2か年の改築延長は計画値を下回ったが、令和4年度単年では52kmの改築を実施できた。</p> <p>○機械・電気設備改築については、前年度の入札不調の案件を令和4年度に再発注する事となったことから、令和4年度に予定していた出来高が計画を下回った。入札不調対策として、早期発注などの取組みにより上半期は契約率が向上するなど効果があったものの下半期には契約率が落ち込み令和4年度までの2か年の改築装置数は、出来高が計画を下回った。</p>	<p>○物価高騰の影響に伴う建設コストの上昇に対して事業に必要な財源を確保し、引き続き、現在の取組を継続実施すると共に、未達成である主な事業について、次の取組みを行い、事業進捗の改善を図る。</p> <p>○管きよの改築については、発注管理並びに現場の執行管理を徹底するとともに、設計業務の一部の外注化などの業務の効率化に加え、新たに設計施工一括発注など契約手法の見直しも検討しながら、令和12年度までに残る約448kmの改築更新を行う。</p> <p>○機械・電気設備改築については、入札不調の原因のひとつである技術者不足の対応としての発注規模の見直しに加え、設計施工一括発注など契約手法の見直しの検討を行い、令和12年度までに残る1450装置の改築更新を行う。</p>

浸水対策

*R4年度実績値（*R4年度計画値）／全体計画値（各事業年度）

※：実績値・計画値は、いずれもR3年度～R4年度累積値

【基本方針】

計画降雨（1時間に60mmの降雨）に対して、浸水被害を解消します。
 計画降雨を上回る集中豪雨に対して、浸水被害の軽減を図ります。
 多様な主体との連携強化やソフト対策により、雨に強いまちづくりを推進します。

【主な事業の進捗】

此花下水処理場内ポンプ場	事業進捗率：92%（90%）／100%（R6年度）
淀の大放水路（大隅～十八条幹線）	事業進捗率：78%（88%）／100%（R5年度）
豊崎～茶屋町幹線	事業進捗率：1%（8%）／100%（R8年度）
集中豪雨被害軽減対策	9地区（23地区）／79地区（R7年度）
グリーンインフラ	4施設（8施設）／18施設（R7年度）

事業進捗率：計画事業費に対する出来高を示す。

グリーンインフラ：集中豪雨被害軽減対策の内数を示す。

【評価と今後の取組方針】

施策	評価	今後の取組方針
浸水対策	<p>○全般的な事業進捗としては、翌年度への事業費の繰越などにより、計画値に対して未達成の事業が多い。</p> <p>○淀の大放水路（大隅～十八条）については、土質調査の結果に伴い掘削設備の改造に時間を要したことから進捗が遅れている。</p> <p>○集中豪雨軽減対策及びグリーンインフラ事業については、契約不調や関係者協議に時間を要したことから進捗が遅れている。</p>	<p>○引き続き、現在の取組を継続実施すると共に、未達成である主な事業について、次の取組みを行い、事業進捗の改善を図る。</p> <p>○淀の大放水路（大隅～十八条）については工程を見直し進捗の遅れを取り戻すなどR5年度末供用開始に向けて着実に工事を進める。</p> <p>○集中豪雨軽減対策及びグリーンインフラ事業については、不調案件の早期再発注や一部工程を見直し進捗の遅れを取り戻すなど行い、R7年度完了に向けて着実に工事を進める。</p>



■淀の大放水路（大隅～十八条幹線）

地震対策

* R 4 年度実績値（* R 4 年度計画値） / 全体計画値（各事業年度）

※：実績値・計画値は、いずれもR3年度～R4年度累積値

【基本方針】

南海トラフ巨大地震による津波被害を抑制します。
 地震動による施設の被害を抑制し、施設機能を維持します。
 災害が発生した場合に、市民生活を維持するために下水道施設を活用します。

【主な事業の進捗】

津波逆流防止対策	0 施設（0 施設） / 6 施設	（R 5 年度）
吐口の耐震化	* ¹ R 4 年度完成済	（R 5 年度）
排水機能の耐震化	0 施設（1 施設） / 3 3 施設	（R 1 2 年度）
緊急交通路の管きょ耐震化	2.8 km（2.5 km） / 1 7.4 km	（R 1 0 年度）
コンクリートブロック塀の改修	1 7 施設（2 5 施設） / * ² 2 5 施設	（R 4 年度）
マンホールトイレの整備	1 箇所（4 箇所） / 5 箇所	（R 8 年度）
処理水供給設備の整備	0 施設（0 施設） / 3 施設	（R 9 年度）

※1：吐口の耐震化については、当初計画の5施設において耐震照査検討の結果、3施設において耐震性能を有していることが確認できたため、R4年度までの2施設完了をもって事業完成

※2：コンクリートブロック塀の改修については、当初計画の26施設において詳細検討の結果、1施設において対象外施設と判明したため、25施設において事業を実施

【評価と今後の取組方針】

施策	評価	今後の取組方針
地震対策	<p>○全般的な事業進捗としては、翌年度への事業費の繰越などにより、計画値に対して未達成の事業が多い。</p> <p>○津波逆流防止対策については、契約不調により進捗が遅れているため、原因を分析し事業完了までの対応方針を含め事業期間の精査を図る必要がある。</p> <p>○コンクリートブロック塀の改修については、一部施設において隣接家屋との協議に時間を要したなど計画事業期限内に事業完成に至らなかったため事業期間変更が必要である。</p>	<p>○引き続き、現在の取組を継続実施すると共に、未達成である主な事業について、次の取組みを行い、事業進捗の改善を図る。</p> <p>○津波逆流防止対策については、早期の再発注及び機器の市場価格の反映等の取組を行い早期の完了を図る。</p> <p>○コンクリートブロック塀の改修については、事業期限を見直し継続実施してR5年度に着実に工事を完了させる。 （事業期限：R4年度 ⇒ R5年度）</p>



都市環境保全

*R4年度実績値（*R4年度計画値）／全体計画値（各事業年度）

※：実績値・計画値は、いずれもR3年度～R4年度累積値

【基本方針】

公共用水域の水環境を保全し、快適な市民生活を保ちます。
 下水道の有する資源を活用し、都市の魅力向上に貢献します。
 下水道施設周辺的生活環境を良好に保ちます。

【主な事業の進捗】

合流式下水道の改善	合流式下水道改善率：79%（82%）／100%（R5年度）
高度処理	1施設（1施設）／3施設（R7年度）
夢洲の下水道整備	事業進捗率：18%（50%）／100%（R6年度）
修景施設の整備	1施設（1施設）／4施設（R8年度）
臭気対策	0施設（1施設）／6施設（R12年度）
エネルギーの有効利用	消化ガス発電事業：6施設にて継続実施中（R12年度）

合流式下水道改善率：

合流式下水道整備地域のうち合流式下水道緊急改善計画に定める対策施設の整備が完了し、下水道の吐口から放流される汚れの総量を分流式下水道と同程度以下に削減した面積の割合を示す。

事業進捗率：計画事業費に対する出来高を表す。

【評価と今後の取組方針】

施策	評価	今後の取組方針
都市環境保全	<p>○全般的な事業進捗としては、翌年度への事業費の繰越などにより、計画値に対して未達成の事業が多い。</p> <p>○夢洲の下水道整備については、土壌汚染により事業着手が遅れが生じているが施工方法等の見直しを行い着実に工事を進捗させている。</p>	<p>○引き続き、現在の取組を継続実施すると共に、未達成である主な事業について、次の取組みを行い、事業進捗の改善を図る。</p> <p>○夢洲の下水道整備については、引き続き現場の執行管理を徹底し、万博開催に向けて着実に工事を完了させる。</p>



■高度処理（中浜下水処理場）